

二〇二四年度入学試験 BⅠ

京都先端科学大学附属中学校

国語

注意

- 問題は全部で十三ページあります。
- 「試験開始」の合図があるまで問題を開いてはいけません。
- 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 質問がある場合は、静かに手をあげ、教員が来るのを待ってください。
- 「試験終了」の合図があったらすみやかに解答をやめ、以後は教員の指示にしたがってください。

□一 次の1～4の数え方の単位としてふさわしいものを漢字で答えなさい。

- 1 うさぎ
- 2 くじら
- 3 カメラ
- 4 サッカーコート

□二 次の1～4の熟語の成り立ちと同じものを語群から選び、漢字に直して答えなさい。

- 1 強弱
- 2 親友
- 3 国立
- 4 岩石

語群

かいが さいごう にゅうもん おうふく かねつ にっしょう

㊦ 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

もし小学生のころから、漢字の自動変換へんかんに慣れてしまうと、その子は漢字が読めても書けない大人になるのでしょうか。

ワシントン大学のニュースサイト「UW TODAY」に興味深い記事が掲載けいさいされました。その中で心理学者バージニア・バーニングは、パソコンにキーボードで文章を書く小学生と、ペンで紙に文章を書く小学生とを比較ひかく研究した場合、明らかに手書きのほうが早く正しい文章を書くことができましたと報告しています。脳科学の分野でも指を使って書く行為こうゐは、脳幹の一部を活性化させるといわれています。もっとも、こういう研究結果を持ちだすまでもなく、言葉は手で書くほうがよく覚える、ということを経験的に知っています。

昨年実施じっしされた全国学力調査では、筆記試験にあわせて、ふだんの学習状じようじょう況きやうや生活習慣も調べていますが、そこで「読書好き」と答えた子は、小、中学生とも全教科で正答率が高いという結果が出ています。一方で、メールやネットゲームをする時間が長い子ほど、すべての教科で正答率が低かったといえます。

ネット上にあふれている言葉にばかり頼たよるようになると、さらに深刻な問題を引き起こします。コピー（コピー&ペースト）はたいへん便利なもので、ほとんどの人が利用する機能ですが、学術論文における無断引用の事例では、この機能がよく使われたことが判明しています。一部の大学では提出された卒業論文について、コピーによる引用がないか、あらかじめ専用ソフトで調べてから審査しんさに入るようにしていますが、それでも無断引用などがあとを絶たたない。しかも問題は、不正な盗用とうようを防げばそれですむというわけではありません。コピーなどの便利な機能が、人間の言語能力を貧困化させることも考えられます。

言葉がデジタル化されると、無限ともいえる文章の中から、欲ほしい文章を簡単に選び出し記録で

きます。かつては目的の言葉や文章にたどり着くまでに、辞書や本に目を通しながら時間をかけて調べました。このときテーマに合わない別の言葉に出合ったり、特に必要のない文章をつけて読んで読んだりということがある。一見、むだに思えるこの「読む」行為も、実は読者の中に蓄積されて残っていく。その時はむだに思えても、いつか役立つかもしれない言葉や知識がその人の頭に残っていくのです。

辞書引き学習の良さもここにあります。そもそも辞書は必要だから引くものです。裏を返せば、言葉が身について引かないでいいようになるのが理想です。しかし辞書引き学習はますます必要でなくても言葉を引く。「知りたい」という欲望が「ググッテン」になるのです。だから授業には直接役立つ立たない言葉もたくさん引く。その多くはむだになるわけですが、記憶のどこかに刻まれます。

辞書引き学習でよく耳にするのは「調べる言葉の前後にならぶ言葉にも注意がいつて、それらもついでに調べてしまう」という副次的な効果です。デジタル化した辞書では、こうした効果はなかなか期待できない。目当ての項目だけがたちどころに表示されてしまうからです。そのとき、背後に隠れた膨大な言葉たちを意識することはありません。一方で、紙の辞書はその厚みの中に、ペー지를開いて目に飛びこんでくる言葉の連なりの中に、つねに無限ともいえる言葉の **A** を意識することができます。

しかし言葉のネット化が進んだ現代では、このような **3** コウリツの悪い言葉の学習方法は、もはや時代遅れです。

今では、言葉は「記憶」するより「記録」して利用するものになりました。記録するのは自分の外部にあるハードディスクなどの記憶媒体の中。ここには一生かかっても使えない数の言葉を記録することができる。しかし、いくら記録しても自分の中に記憶されていない言葉は、物事を発想したり考えたりするときには役立ちません。それは「私は三〇〇〇冊の本を持っている。だから頭が

いい」と威張^{いば}っている愚^{おろ}かな人にたとえられるでしょう。読んでもいない、理解もしていない本をいくらたくさん持っていて、³宝^{たから}の持ち腐^{くさ}れでしかありません。

結局、ネットの発達によって「言葉を理解し記憶する」という人間の能力そのものが衰退^{すいた}しようとしているのです。頭で言葉を理解し使いこなすということを、端^{たん}末^{まつ}画面のキーボード操作や表示項目の処理ですませられるからです。言葉が思考を促^{うなが}すものだとすれば、その思考はキーの操作や処理にとって代わられるということです。

ときどき私は画面に「情報」を表示しただけで、それを理解した気になっている自分に気づき、とても慌^{あわ}てることがあります。そのときの言葉の理解は液晶^{えきしん}板^{ばん}と同じように薄^{うす}っぺらです。デジタル化された言葉は一面にはぎ取られコピーされて、他の画面に流用される。それはまるで言葉が人を素^す通^{とお}りして、勝手に漂^{ただよ}っているかのようです。

以前、私も電子書籍^{しよせき}を読んでみたことがあります。しかし、すぐに紙の本に戻^{もど}った。理由は本の断片^{だんぺん}が切りとられ画面表示されるといふ、そのあり方に違和^{いわ}感がぬぐえないからでした。

いくら読み進めても手^て応^おえがない。灰色の画面に浮^うかぶ本の全体から切り離^{はな}された断片^{だんぺん}的な文章では、作品世界に没^{ぼつ}入^{にゅう}できないのです。コミックであれば作品ごとに絵が異なり、表示された画面の印象がまったく違います。作品の個性が瞬^{しゅん}時^じに視覚化される。電子書籍の多くがコミックだといふのも、そこに理由があるのかもしれない。

私はずっしりと重い事典のページをめくるたびに、その言葉の量に圧倒^{あつとう}されます。いまだに知らないことがたくさんあり、自分は世界の何をも理解していないのではないかという思いを持つ。それはかつて少年時代の私が応接間の百科事典を開いたときと、同じ感覚です。紙の本である事典は、手に持って開くだけで、言葉の世界の広大さを視覚的にも身体的にも教えてくれる。この感覚はすべての本に通じるものです。本を手にするたびに私は、言葉というものと、それによって構成される知性というものに⁴謙虚^{けんきょ}な気持ちになります。

しかし電子書籍などデジタル化された言葉には、まったく正反対の気持ちを持ちます。画面に表示された文字列は指先の操作でどのようにでも処理できる記号のようなもので、それには謙虚であるより、むしろ傲慢ごうまんに対処してしまふ。デジタル化した言葉にばかり取り巻かれていると、言葉や知性への謙虚さが失われてしまふのではないかと不安です。

かつて教養という言葉が生活の中に生きていました。わが家の百科事典もその教養を象徴しょうちゆうしていました。やがてその言葉は廃すたれて、いまは反知性主義が横行しているという話も耳にします。教養、知性に代わって主役を務めるのが情報となり、その情報社会を駆動くどうしているのがデジタル化した言葉です。教養や知性とは、人間と世界を理解しようとする態度そのものことです。支えるのはそんなデジタル化された言葉ではなく、やっぱり紙5に記された言葉なのです。

(藤原智美 『スマホ断食 ネット時代に異議があります』)

問一 〰〰部 1〜3のカタカナは漢字に直し、漢字には読みをひらがなで答えなさい。

問二 〰部 1「さらに深刻な問題」とありますが、それはどのような問題ですか。「〰問題」に続く形で、本文中より十五字以内でぬき出しなさい。

問三 〰部 2「むだに思えるこの『読む』行為」とありますが、どのような点が「むだに思える」のですか。三十字以内で説明しなさい。

問四 Aに当てはまる比喩表現として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 川 イ 森 ウ 海 エ 山

問五 — 部 3 「宝の持ち腐れ」とありますが、同じような意味として使うものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 河童かわづまの川流れ イ 無用の長物 ウ 水を得た魚 エ 二階から目薬

問六 — 部 4 「謙虚な気持ち」とありますが、それはどういうことですか。本文中より四十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問七 — 部 5 「紙に記された言葉」とありますが、筆者はどのような点において必要だと考えていますか。簡潔に説明しなさい。

四 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

八月三十日には母と西武大津店に行った。ファイナルバーゲンの商品棚だなはすでにスカスカで、レジには長蛇ちようだの列ができています。こんなに賑にぎわっている西武大津店を見るのははじめてだ。母も「普段ふだんからこれだけ人がいたらつぶれなかったのにな」と閉店へいあるあるみたいなのを言う。

中継ちゅうけいではよくわからなかったが、入口のメッセーボードには琵琶湖の形が描えがかれていた。琵琶湖部分にはブルーのカード、陸地部分にはオレンジのカードを貼はるきまりらしい。ざっと目を通してみたが、成瀬のカードは見つからなかった。「大津に西武があったてよかった」「初デートは西武でした」「たくさんの思い出をありがとう」「大好きな場所でした」など、一人ひとりの思いが伝わっ

てきて胸が熱くなる。わたしもメッセージを残したくなって、「小さいときから何度も来ていました。今までありがとう」と書いて貼った。

八月三十一日の朝、いつもの時間に家を出ると、マンションのエントランスに私服姿の成瀬がいた。

「今日、学校休む」

わたしは一瞬、ぐるりんワイドに備えて学校を休むのだと思った。さすが最終日、気合いが入ってるねと返そうとしたら、成瀬はいつになく沈痛な表情をして「おばあちゃんが死んだんだ」と言った。

「おばあちゃんって、彦根の？」

「そう。今から家族であっちに行く」

「ぐるりんワイドは？」

不謹慎かもしれないと思いつつも、訊かすにはいられなかった。成瀬は黙って首を横に振った。そんなこと訊くなど言っているようにも見えた。

「島崎には一応伝えておきたかったんだ。それじゃ」

成瀬はそう言い残してエレベーター方向に消えていった。

通常どおり登校したものの、ずっと²上の空³だった。授業中も成瀬とぐるりんワイドのことはかり考えてしまう。こんな事情では仕方ないという気持ちと、どうにかならなかったのかという気持ちが渦巻く。成瀬から万が一を託された者として、せめてわたしだけでも番組冒頭から出ようと思ひ、部活は途中で切り上げて帰宅した。

自宅で最後の中継に向けて準備をしつつ、+LINE+で「西武大津店」を検索すると、閉店を惜しむ人たちの声であふれていた。今日も多くの人で混み合っているらしい。

検索ワードを「ぐるりんワイド」に変えると、今日の書き込みがぐっと減る。早い時期から成瀬を追ってくれているタクローさんは、金曜日に「ライオンズ女子ももうすぐ見納めかー」とつぶ

やいていた。成瀬は身内の不幸で行けなくなったと伝えたいところだが、本人でもないのに個人情報を明かしてはいけないと習っている。マスクに「成瀬は欠席です」と書こうかとも思ったが、熱心な視聴者でもない限りわたしと成瀬の違いはわからないだろう。

しかしせっかくだからマスクに何か書いておきたくなり、「ありがとう」と大きく書いた。

番組開始十分前に正面入口前に着いて、失敗したと思った。すでにたくさんのギャラリーが集まっている。最終日だからと出かけてきた人たちが、テレビカメラを見て立ち止まっているのだろう。カウントダウン表示は記念写真を撮る人たちに取り囲まれている。人々はスマホで「あと一日」の表示を撮影していた。

ひとまず態勢を整えるためユニフォームを羽織ると、ギャラリーの視線を感じた。

「一ヶ月お疲れさまでした」

四十歳ぐらいの女性がわたしに近付き、西武ライオンズのタオルをくれた。さらには「一緒に写真撮ってもらっていいですか？」と問われ、なぜかツーショット写真を撮る。少しでも喜んでくれるならいいだろうと思っていたら、「そいつは偽者だ」という声がした。見ると、白髪の男性が厳しい目を向けている。

「いつも映ってる子と顔が違う」

まさかこんなところに熱心な視聴者がいたとは。皆勤の成瀬と比べたらわたしは出席日数が足りない。成瀬の添え物に徹したのが仇となった。

「あれは友達です」

「嘘言え！　そうやって誤魔化そうだったってダメだからな！　帽子だってかぶってないじゃないか！」

タオルをくれた女性はどうしたらいいのかわからない様子で立っている。成瀬の友達だと証明できるものはなにもない。成瀬の祖母が死んだ話をしてもらえないだろう。周りには関わり合いになりたくないような顔で見ている。しかももうすぐぐるりんワイドがはじまってしまう。

「島崎！」

声がする方に目をやると、背番号一番のユニフォームを着た本物が横断歩道を渡ってくるのが見えた。帽子もリストバンドも身につけている。

成瀬は「間に合った」と言いながらわたしに駆け寄った。成瀬のマスクにも「X」と書かれている。

「何かあったのか？」

わたしは安堵で泣きそうだった。絡んできた男性はいつの間にか消えている。タオルをくれた女性もほっとした様子だ。

「あとで説明する」

わたしは青いタオルを成瀬の首にかけた。

中継がはじまり、レポーターがギャラリーにマイクを向ける。いつもは一組だけだが、二組、三組と声をかけた。成瀬にも回ってくるのではないかと期待したが、四組目でインタビューは終わってしまった。

撮影クルーはぞろぞろと移動をはじめた。

「さつき、知らないおじさんに偽者だって絡まれたの」

「そりゃサイナンだったな。遅くなつてごめん」

成瀬が謝るとは思わなかった。

「ううん。来てくれてよかった。おばあちゃんの件は大丈夫？」

「お通夜は明日なんだ。親戚みんな、今日も行ったほうがおばあちゃん喜んで言うから」

成瀬を送り出してくれた親戚一同に感謝した。

撮影クルーは一階の食品売り場、二階の婦人服売り場、四階の紳士服売り場と、西武大津店を振り返るかのごとく上がっていく。ついていくのは成瀬とわたしと小学生グループぐらいだ。小学生から「なんで野球のユニフォーム着てるん？」と突っ込まれ、成瀬は「これがわたしの制服なんだ」

と答えていた。

番組の最後は六階のテラスからだだった。西武大津店を背に店長が立ち、カメラに向かってレポーターと話をしている。わたしたちギャラリィは店長の後ろで密にならないよう間隔かんかくをあけて立っていた。

「夏でよかった」

成瀬が言う。

「なんで？」

「暗くて寒かったら、今頃いまごろもっと寂さびしいから」

こうして成瀬は中二の夏を西武大津店に捧ささげたのだった。

九月三日、忌引きびき明けの成瀬と、部活が終わってから西武大津店を見に行った。

人のいない西武大津店は急激に老け込んだようだった。三日前と同じ建物とは思えないほど傷いたみが目立つ。入口にあったSEIBUのロゴは剥はがされ、看板はシートで覆おおわれていた。片付けのために店員が出入りしているようだが、そのうち解体工事はじまるのだろう。

病気で入院していた成瀬の祖母は、ぐるりんワイドを見るのを楽しみにしていたそうだ。八月二十八日の放送まで「今日もあかりが映つとる」と喜んでいたが、三十日の深夜に容態が急変し、八月三十一日の朝、息を引き取ったらしい。成瀬の定位置だった閉店へのカウントダウンが祖母の寿じゅ命めいになってしまった。

「成瀬はおばあちゃんのために西武に通ってたの？」

「多少は意識してたけど、一番の理由ではない。こんな時期でもできる挑ちようせん戦せんがしたかったんだ」

わたしは成瀬がもっとバズるところを見たかったのだが、そこまで盛り上がらなかった。びわテレとぐるりんワイドの限界を感じた。

それでも何人かは西武大津店の閉店時の思い出として、成瀬を覚えていてくれるだろう。西武グッツをくれた人たち、絵を描いてくれた子ども、ツイートしてくれたアカウント、取材してくれた

新聞記者、ぐるりんワイドの視聴者、すべてが成瀬あかり史のキチヨウな証人だ。

「将来、わたしが大津にデパートを建てる」

「がんばれ」

成瀬の発言が実現するといいなと思いつつながら、⁷ わたしは元西武大津店になった建物を見上げた。

(宮島未奈『成瀬は天下を取りに行く』)

問一 〰〰部 1〰3のカタカナは漢字に直し、漢字には読みをひらがなで答えなさい。

問二 〰部 1「閉店あるある」とありますが、どのような点が「あるある」のですか。三十
五字以内で説明しなさい。

問三 〰部 2「上の空」・5「仇となった」の意味としてふさわしいものをそれぞれ選び、記
号で答えなさい。

2 上の空

- ア だれより高い希望や目標を持っているさま
イ 全く想像もつかないほど手が届かないさま
ウ 何かに気を取られて心が落ち着かないさま
エ 空を見上げたくなるほどすっきりしたさま

5 仇となった

- ア 何もかも全てが無駄になっちゃったこと
- イ 意見が分かれてしまい敵同士になること
- ウ 自分の敵に対して必要以上に責めること
- エ よかれと思ったことが逆効果になること

問四 — 部 3 「こんな事情」とありますが、それはどんな事情ですか。簡潔に説明しなさい。

問五 — 部 4 「皆勤の成瀬と比べたらわたしは出席日数が足りない」とありますが、これはどのようなことを例えた表現ですか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 毎日授業にも参加している成瀬に対して、自分は学校を休みがちで進級できないかもしれないということ。
- イ 毎日ぐるりんワイドに映っている成瀬に対して、自分は一緒にいるだけであまり映っていないということ。
- ウ 毎日西武百貨店に来ている成瀬に対して、自分は毎日ではなく行けるときだけ参加をしているということ。
- エ 毎日西武大津店に来ている成瀬が褒められるのに、自分は毎日来ていないため怒られてしまっているということ。

問六 Xに入る語としてふさわしいものを本文中から五字以内でぬき出しなさい。

問七 ― 部 6 「成瀬が謝るとは思わなかった」とありますが、島崎は成瀬をどのような人物ととらえていますか。ふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 成瀬は自分よりも人のことを優先する人物である。
- イ 成瀬は決めたことは最後までやり通す人物である。
- ウ 成瀬は人に合わせることを全くしない人物である。
- エ 成瀬はいつも上から目線で人を見下す人物である。

問八 ― 部 7 「わたしは元西武大津店になった建物を見上げた」とありますが、その時の気持ちを簡潔に説明しなさい。

〈問題はこれで終わりです〉

受験番号

学校名

小学校

氏名

点線より下には何も
記入しないこと。
《成績集計欄》

一

1

2

3

4

二

1

2

3

4

三

問一
1

2

3

問二

問題。

問三

問四

問五

問六

問七

四

問一
1

2

3

問二

問三
2
5

問四

問五

問六

問七

問八

BI

BI

国語B-I

【計8点】

1 羽 2 頭 3 台 4 面

【計12点】

1 往復 2 最高 3 日照 4 絵画

【計36点】

問一 1 た 2 原点 3 効率

(2点×3)

問二 人間の言語能力を貧困化させる

(5点)

問三 目的とは異なる言葉に出合ったり、文章を読んだりする点。(6点)

問四 ウ

(4点)

問五 イ

(4点)

問六 いまだに知くという思い

(5点)

問七 切り取った一部分だけでなく、前後の文脈や言葉にも目を向けることができ、教養や知性を身につけられる点。(6点)

【計44点】

問一 1 みおさ 2 災難 3 貴重 (2点×3)

問二 普段は客が少なかったのに、閉店を告げた後になってから客が増えること。(6点)

問三 2 ウ 5 エ (3点×2)

問四 成瀬のおばあちゃんが亡くなったため、最後の営業日に西武大津店に行けないこと。(6点)

問五 ウ (5点)

問六 ありがとう (5点)

問七 イ (4点)

問八 西武大津店の閉店にさみしさを感じながらも、成瀬の発言が実現することを期待する気持ち。(6点)